

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		現代の国語	現代の国語		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 現代の国語（第一学習社） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○実社会において必要な語句の量を増やし、その構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、使うことによって語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする力を培う。 ○相手や目的に応じ、自分の考えを深め、筋道を立てて適切に文章にできる力を身につける。 ○論理的な文章や実用的な文章を読解し、国語を適切に表現し、的確に捉える能力を育成する。 ○現代社会に関わる話題や問題を幅広く取り上げ、言語文化に対する関心を深め、読書に親しむ態度を身につける。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	理解（一）評論 理解（二）小説 理解（三）評論 表現（一）書き方の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容や構成，展開を的確に捉え，要旨を把握する力を養う。 ○文章のなかで常用漢字を活用し，語句の量を増やし，語彙を豊かにする。 ○接続表現や比喻などの表現技法の種類や用法を理解し，正確で分かりやすい文を書けるようになることを目指す。 ○書いた文章を批評し合う活動を行い，批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する力を養う。 ○複数の資料や文章を読み比べて必要な情報を読み取り，複数の情報を関連づけてまとめられるようにする。 ○相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し，課題に沿って適切に使えるようにする。
	第2回	理解（四）実用文	
	第3回		
後 期	第4回	表現（二）話し方の工夫 理解（五）評論 理解（六）実用文 理解（七）小説	
	第5回		

* 年間指導計画は予定であり，変更がある場合には，連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
国語		言語文化	言語文化		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 言語文化（第一学習社） 新修 古典文法（京都書房） 必携 新明説漢文（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
指導到達目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 1 実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
講座内容		○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、使うことを通じて語感を磨き語彙を豊かにする。 ○適切な材料を集め、自分の体験や思いが効果的に伝わるように表現の仕方を工夫する力を培う。 ○古典の世界に親しむために、特有の表現や修辞法、作品や文章の歴史的・文化的背景などについて理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	古文入門 漢文入門 故事成語 歌物語 随筆（一）	<ul style="list-style-type: none"> ○古典の文章に慣れ、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ○文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えられるようにする。 ○文章の舞台となる時代背景を知り、我が国の文化と外国の文化との関係について理解をする。 ○現代詩歌の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の思想や心情を読み取る力を培う。 ○和歌の修辞技法とその効果について理解し、我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について考える。 ○我が国の伝統芸能や行事に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現技法などについて興味を広げ、自分の考えを持つとする。
	第2回	史伝 近現代の詩歌	
	第3回		
後期	第4回	日記 漢詩 思想 古典の詩歌	
	第5回	随筆（二） 軍記物語 伝統と文化	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
地理歴史科		地理総合	地理総合		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		地理総合（東京書籍）新詳高等地図（帝国書院） 最新地理図表GEO（第一学習社）			
指導到達目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
講座内容		<p>○地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義・特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用などに着目し、多面的に考察し、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>地理に関わる諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。</p> <p>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想することができる。</p> <p>考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>	<p>知識技能を獲得や、思考力・判断力・表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。</p> <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通じて、自国および他国やその文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっている。</p>	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	<p>情報を分析し表現する力</p> <p>論理的・多面的に思考する力</p> <p>受容する力・対話する力</p>	<p>協働する力</p> <p>やり抜く力</p>	
評価方法		<p>○定期考査</p> <p>○発問評価</p>	<p>○定期考査</p> <p>○グループディスカッション</p>	<p>○提出物</p> <p>○授業参加の態度</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちが暮らす世界 ○地図や地理情報システムの役割 ○資料から読み取る現代社会 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○「地理的な課題」を考察するために不可欠である、「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら扱うことにより、現代的な諸課題に対する関心を深めさせるよう働きかける。 ○中学校までの社会科地理分野の知識の範囲に配慮した授業展開，そして2年次以降の「地理探究」につながるような授業展開を意識し，地理的な視野を深化させられる教育活動を行う。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化の多様性と国際理解 ○生活文化の自然環境①地形 	
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化の自然環境②気候 ○生活文化と産業① 	
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化と産業② ○地球環境問題 ○人口問題 ○食料問題 ○居住・都市問題 ○民族問題 	
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の実現を目指して ○日本の自然環境の特色 ○様々な自然災害と防災 ○地域調査 	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
地理歴史科		歴史総合	歴史総合		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)			
指導到達目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
講座内容		<p>○近現代の歴史における様々な側面での変化について考察することを通して、広い視野で物事を捉え判断する力を養う。その力を生かし、現代における日本及び世界の諸課題の起因とその解決策について自分なりの理解・判断のできる人格を育てたい。</p> <p>○世界とその中の日本の歴史的な歩みを概観する。日本を中心としてみた歴史と、世界の流れの中に日本を位置づけた歴史の双方の視点を重視して指導を行うため、日本史的な観点と世界史的な観点の立場に立った授業を展開する。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○小テスト ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○小テスト ○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○諸地域世界の形成 ○近代化への問い（1 交通と貿易／2 産業と人口／3 権利意識と政治参加や国民の義務／4 学校教育／5 労働と家族／6 移民） ○結びつく世界 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を増やすとともに、思考・判断・表現の力を評価する機会を増やす。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・絵画・図表など）を提示し、歴史における時代的な変化、地域的な特色の豊かさを意識させるとともに、史資料を読み解く視点を身に付けさせる。 ○近現代史における「現代的な諸課題」として学習指導要領に明記された「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら扱うことにより、現代的な諸課題に対する関心を深めさせるよう働きかける。 ○中学校までの社会科歴史分野の知識の範囲に配慮した授業展開、そして2年次以降の「世界史探究」「日本史探究」につながるような授業展開を意識し、歴史的な視野を深化させられる教育活動を行う。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○近代ヨーロッパ・アメリカの成立 ○明治維新と日本の立憲体制 ○帝国主義の展開とアジア ○近代化と現代的な諸課題（自由・制限／開発・保全） 	
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○国際秩序の変化や大衆化への問い（1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソ連の台頭／3 植民地の独立／4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化／5 生活様式の変化） ○第一次世界大戦と大衆社会 	
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○経済危機と第二次世界大戦 ○国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題（対立・協調／平等・格差／統合・分化） ○グローバル化への問い（1 冷戦と国際関係／2 人と資本の移動／3 高度情報通信／4 食料と人口／5 資源・エネルギーと地球環境／6 感染症／7 多様な人々の共存） 	
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦と世界経済 ○グローバル化する世界 ○現代の課題 ○現代的な諸課題の形成と展望 	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学 I	数学 I		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		新編 数学 I (数研出版) 3TRIAL 数学 I (数研出版)			
指導到達目標		数と式, 集合と命題, 2 次関数, 図形と計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「数と式」 数を実数に拡張し, 1 次不等式や 2 次方程式を活用して様々な問題に応用することができるようにする。</p> <p>2 「集合と命題」 集合についての基本的な事項を理解し, それらを命題などの考察に活かせるようにする。</p> <p>3 「2 次関数」 2 次関数を用いて数量の変化を表現することを学び, グラフを用いていろいろな問題の解決を図る。</p> <p>4 「図形と計量」 直角三角形における三角比から鈍角のそれへと拡張し, 三角比の基本的な関係式を学び, 平面図形や空間図形の計量や簡単な測量への応用を行う。</p> <p>5 「データの分析」 測定値や観測値の集まりであるデータを整理し, ヒストグラムや箱ひげ図といったグラフにまとめることを学び, 表計算ソフトを用いてデータの分析を行う。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○数と式, 2 次関数, 図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命題の条件や結論に着目し数や式を目的に応じて変形する力, 図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力, 関数関係に着目し事象を表現し考察する力, データの散らばりや変量間の関係などに着目し問題解決の過程や結果を考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し, 数学を活用しようしたり, 数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしたりしている。 	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	○式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 ○実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、無理数の四則演算ができるようにする。 ○不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。
	第2回	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・裏・対偶 4. 命題と証明 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	○集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 ○2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 ○2次関数のグラフを通して、関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	第3回	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	○2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。 ○三角比の意味やその基本的な性質について理解し三角比の相互関係などを理解できるようにする。日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
後 期	第4回	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方	○図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。 ○データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行いデータの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学Ⅱ	数学Ⅱ		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		新編 数学Ⅱ (数研出版) 3TRIAL 数学Ⅱ (数研出版)			
指導到達目標		いろいろな式の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「式と証明」 式と証明について理解を深め、方程式の解を発展的にとらえることができるようにする。</p> <p>2 「複素数と方程式」 数の範囲を複素数にまで拡張し、2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。 	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
後 期	第5回	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	○多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ○方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ○因数定理を理解し，因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
数学		数学 A	数学 A		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		新編 数学 A (数研出版) 3TRIAL 数学 A (数研出版)			
指導到達目標		場合の数と確率，図形の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
講座内容		<p>1 「場合の数と確率」 順列・組合せや確率を学習し，不確定な事象を数量的にとらえて考察し，処理できるようにする。</p> <p>2 「図形の性質」 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め，平面図形の性質を論理的に考察し処理できるようにし，空間図形の位置関係を捉えられるようにする。</p> <p>3 「数学と人間の活動」 約数や倍数といった数や，整数の性質を学び，その性質を利用して事象を示す，一次不定方程式を解く事ができるようにする。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○場合の数と確率，図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，図形の構成要素間の関係などに着目し図形の性質を見だし，論理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合と要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	○場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値	○確率の基本や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形	○平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	○空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方	○身近な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名	科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科	物理基礎	物理基礎		2
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	1	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高等学校 物理基礎 (第一学習社)			
指導到達目標	日常生活や社会と関連した題材をもとに、力学、熱、波動、電気の4つの分野について学び、身のまわりの疑問に対して、考える力を身につける。			
講座内容	<p>第I章 運動とエネルギー 複雑で、全く異なって見える種々の運動に、共通した法則性があることを学習する。</p> <p>第II章 熱 熱の実体とは何かを学び、熱の利用について考察する。</p> <p>第III章 波動 様々な波に共通する基本的な性質を学習する。また、音波に着目し、波としての音の性質について考える。</p> <p>第IV章 電気 電気に関する基本的な物理量を学習し、電気と密接に関わる磁気の性質を学ぶ。また、家庭に送られている電気がどのようにつくられているのか、その仕組みを学習する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○斜面上をくだる台車の運動や、台車を一定の力で引く実験などを行い、様々な運動の法則性を理解することができる。 ○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静止している物体や、運動している物体のようすを図や矢印で表し、それらから式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べるることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探求していく態度を育むことができる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い教養 ○高度な技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を分析し表現する力 ○論理的・多面的に思考する力 ○受容する力・対話する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働する力 ○やり抜く力 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実験書 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第I章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	①速さと速度のそれぞれの特徴を学習し、直線上の運動における速度の合成や相対速度を理解する。 ②物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、一定の加速度で運動するようすを式やグラフで表す。 ③物体が落下するときの運動の特徴について学習し、運動のようすを式やグラフで表す。
	第2回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則	①物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ②力の合成、分解を学習し、物体にはたらく力のつりあいを理解する。 ③物体を一定の力で引く実験などを行い、運動の3法則を理解する。
	第3回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 第3節 仕事と力学的エネルギー	①物体に摩擦力や浮力がはたらくときの運動を理解する。 ②物理における仕事の意味を学習し、仕事の原理、仕事率について理解する。 ③運動エネルギー、位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ④力学的エネルギー保存の法則についての実験などを行い、仕事と関連づけて理解する。
後 期	第4回	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー	①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ②熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第5回	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	①ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ②波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ③気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。 ④電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。 ⑤放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
理科		生物基礎	生物基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		高等学校 生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社） リードα生物基礎（数研出版）			
指導到達目標		日常生活や社会と関連を図りながら，生物や生物現象について理解すると共に，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。また、生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
講座内容		第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とのはたらき 第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 生物の多様性と生態系			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究に必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし，見通しをもって観察、実験などを行い，式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引き起こされるかを問い，探求していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成	生物の多様性と共通性について理解し、その共通性が共通の起源をもつことに由来することを学習する。
	第2回	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	遺伝子の本体であるDNAについて、構造およびそのはたらきについて理解し、細胞に正確に複製されて受け継がれていくことを学習する。
	第3回	第2章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ	多細胞生物において、体内環境がいかにして一定に保たれているかを理解する。さらに、そのしくみとして、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系・免疫を学習する。
後 期	第4回	第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき	
	第5回	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 第5章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	地球上に見られるさまざまな環境によってどのようなバイオームが分布しているかを学習する。また、人類が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げ自然環境を保全することが大切であることを理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		体育	体育		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店）			
指導到達目標		<p>○生涯にわたって運動，スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。</p> <p>○課題解決のために思考し，判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。</p> <p>○仲間と競争や協働の経験を通して，互いに認め合い，高め合うことができる。</p>			
講座内容		<p>講座内容</p> <p>1 「体づくり運動」では，自己の体力や生活に応じて，体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>2 「器械運動」「陸上競技」では，各種の技の習得や向上を目指し，自ら考え，工夫できるようにする。</p> <p>3 「球技」では，技能の段階に応じた作戦を立て，勝敗を競う過程に楽しさを味わうことができるようにする。また，グループの中で公正・協力・責任などの態度を育てる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本校規定の体操服（柔道着），体育館シューズ，グラウンドシューズをきちんと着用し，指導教員の指示をよく聞いて，安全に留意して授業を受けること。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール，試合の進め方等を理解し，実践することができる。また，各種目に必要な技能や体力を身につけ，努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し，話し合い活動へ積極的に関わったり，課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また，自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け，グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また，健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント記述 ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	<p>○2年次以降の選択制授業に向けて様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。</p> <p>○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。</p> <p>○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。</p> <p>○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。</p>
		ソフトボール（男子） バレーボール（女子）	
		体育理論（男女）	
		ダンス（男女）	
		陸上競技（男子） バドミントン（女子）	
後 期		バスケットボール（男子） 器械運動（女子）	
		器械運動（男子） 陸上競技（女子）	
		サッカー（男子） バスケットボール（女子）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
保健体育		保健	保健		1
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○様々な疾病や怪我などの特徴や予防方法の知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。 ○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。 ○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。 			
講座内容		<p>講座内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「現代社会と健康」では、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。 <p>また、新たに取り上げられることとなった「がん」や「精神疾患」など現代における健康課題とその予防について学ぶことで正しい知識を身につけ、これらの健康課題を解決していくために必要な実践力を養うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「安全な社会生活」では、交通安全や応急手当の知識はもちろんのこと、特に心肺蘇生法の手順や AED を用いた心肺蘇生法の技能についても実践できるようにする。 <p>具体的な単元：「生活習慣病の予防と回復」「がんの原因と予防」「精神疾患の特徴」「応急手当の意義とその基本」など</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」の単元を通して基礎的な知識を習得し、AED や応急手当などの技能を身につけ、実践できるようにする。	様々な疾病や安全に生活していくための予防法を思考したり、健康に生活を送るための正しい選択ができる判断力を身につけたりしようとする。また、考えたことをグループの仲間に向けて伝えようとする。	自分の健康や安全について興味関心を持ち、積極的に考えることができる。また、他者の意見や考えを尊重し、多面的に物事を考えようとする。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 理論的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第3回	<p>○「現代社会と健康」</p> 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復	<p>○各単元の基礎的な知識を理解し、自分の日常生活に生かそうとする力を養う。</p> <p>○保健は自分の日常生活に直結する学問であることを意識し、健康で安全な生活を送っていくための方策を思考し、グループの仲間と共有する力を身につける。</p> <p>○授業中は様々な健康課題について、グループ内で考え、仲間と積極的に課題解決に向けて取り組む姿勢が求められる。</p> <p>○できるだけ身近な話題に触れ、興味関心を高めようとする。</p>
後 期	第5回	現代の感染症 感染症の予防 性感染症エイズとその予防 健康に関する意思決定行動選択 健康に関する環境づくり	
		<p>○「安全な社会生活」</p> 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		音楽 I	音楽 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		高校生の音楽 I (教育芸術社)			
指導到達目標		<p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>			
講座内容		<p>○歌唱においては、斉唱・混声 2～3 部合唱。</p> <p>○器楽ではギター、箏を使用する。</p> <p>○鑑賞では、CD・DVD・楽器実演奏等を用いる。</p> <p>年間を通して音楽の幅広い知識を身につける。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わりなどについて理解を深める。 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考え、どのように表現するか意図をもっている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○小テスト</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○鑑賞課題</p> <p>○振り返りシート</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○発表態度の観察</p> <p>○鑑賞課題</p> <p>○振り返りシート</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		<p>○歌唱</p> <p>○リズム合奏</p>	<p>○歌うときの基本的な姿勢や呼吸，発声などの技能を身に付け，歌詞の内容を理解し，自己のイメージをもって曲想にふさわしい発声で表現を工夫して歌う</p> <p>○日本語を美しく歌うために，鼻濁音や子音の発音に注意するとともに，歌詞の内容や背景を理解し，情景を思い浮かべて詩情にあった歌唱表現を工夫して歌う</p> <p>○曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて関心をもち，表現意図をもって歌う</p> <p>○豊かな音色になるようリズム奏に用いる打楽器の組み合わせ方を工夫したり，リズムパターンを即興で変化させたりして，ダイナミックなリズム合奏をする</p>
後 期		<p>○器楽</p> <p>○創作</p> <p>○鑑賞</p>	<p>○音楽の特徴を知覚し，それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，演奏する</p> <p>○音楽を形づくっている要素を手がかりに，自分のイメージに合う旋律を創作する。</p> <p>○音楽の特徴と文化・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解する。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		美術 I	美術 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		美術 1 (光村図書)			
指導到達目標		<p>絵画・デザインなど、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現する能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。</p> <p>課題の導入として鑑賞活動を、課題の終わりに生徒作品の相互鑑賞を含めた制作のまとめを行い、様々なものに触れあう機会を作り、感じたことや思ったことを言葉にまとめる力を身につける。</p>			
講座内容		<p>○人物クローキーを通して、ものの見方や描き方を学び、基礎的な描写の技術を身につける。</p> <p>○絵画の分野では、表現方法や色・形などを工夫しながら作品を制作していく。その中で、「自分らしさ」について考えていく。</p> <p>○デザインの分野では、自分の考えや表現したいイメージを整理し、着彩段階では色相対比・明度対比を効果的に利用した色彩構成を考えていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら創造活動の幅を広げる。</p> <p>○作品完成後にお互いの作品を鑑賞し、表現の違いや良さについて考える。</p>			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めることができる。</p> <p>教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。</p>	<p>アイディアスケッチや色彩表現において、自分の思いや考えをまとめることができる。</p> <p>作品ごとに効果的な表現方法を判断し制作することができる。</p> <p>授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。</p>	<p>他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映することができる。</p> <p>感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめることができる。</p>	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		<p>○幅広い教養</p> <p>○高度な技術</p>	<p>○情報を分析し表現する力</p> <p>○論理的・多面的に思考する力</p> <p>○受容する力・対話する力</p>	<p>○協働する力</p> <p>○やり抜く力</p>	
評価方法		<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p> <p>○アイディアスケッチ</p> <p>○振り返りシート</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○提出作品</p> <p>○振り返りシート</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○振り返りシート</p>	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		<p>○ガイダンス</p> <p>○人物クロッキー</p> <p>○絵画（油彩） 「靴を描く」</p> <p>○デザイン 「自分人形イラスト」</p>	<p>美術 I についての概要を知る</p> <p>○絵を描くための基本的なものの見方や描き方を身につける</p> <p>○油彩画の効果的な表現方法を知る</p> <p>○モチーフの固有色だけでなく、自分の感じた色を大切にして表現する</p> <p>○ポスターカラーの基礎的な表現方法を知る</p> <p>○色相対比・明度対比を効果的に利用して表現する</p>
後 期		<p>○絵画（透明水彩画法） 「花を描く」</p> <p>○絵画・デザイン（コラージュ） 「コラージュで描くカレンダー制作」</p>	<p>○透明水彩の基礎的な表現方法を知る にじみ・ぼかしの技法を効果的に利用して表現する</p> <p>○素材や用具の特性を理解し制作する</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
芸術		書道 I	書道 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	選択	
履修条件					
教材名・副教材名		書 I (教育図書) 書 I プライマリーブック (教育図書)			
指導到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の五書体および仮名の成立の歴史を知り、楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。 ○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。 ○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、自分の考えや感じたことを話せるようにする。 ○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。 			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○書写から書道への内容に移行していく中で、ただ整った文字を書くだけではなく、様々な美しさがあることを学ぶ。 ○漢字の五書体および仮名の成立の歴史を知り、楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じる。 ○篆刻により自身の名印を作成する。 ○漢字仮名交じり書の学習を通して様々な書にふれ、一元的なものではない美に気づいていく。 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりする。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品の評価 ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		<p>書写から書道へ</p> <p>楷書（『孔子廟堂碑』、『九成宮醴泉銘』、『雁塔聖教序』、『牛欄造像記』、楷書の創作）</p> <p>篆刻（名印）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校国語科書写の機能性を軸とした学習から、芸術科書道の表現性を軸とした学習へと移るため、共通点と相違点、基本的内容を理解する。 ○様々な楷書を比較することで表現の多様性を理解し、作品制作に活用することができるようにする。 ○様々な印があることを知り、作品と落款印との関係を理解する。 ○自分の印を刻すことによって、興味・関心・意欲を高めることができるようにする。
後 期		<p>行書（『蘭亭序』、行書の創作）</p> <p>仮名の書（いろは歌、『蓬萊切』）</p> <p>漢字仮名交じりの書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○臨書学習により、行書の基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶことで、様々な書の表現性とその表現効果との関わりを理解できるようにする。 ○仮名の点画や線質の表し方と用筆法・運筆法を理解し表現できるようにする。 ○単体・連綿と全体の構成を考え、意図に基づく表現の構想と工夫ができるようにする。 ○表現と用具・用材との関係を理解し、漢字と仮名の調和した線質の表し方、字形や文字の大きさと全体構成の表し方を工夫し、意図に基づく表現ができるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション I		3
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		LANDMARK English Communication I (啓林館) LANDMARK English Communication I ワークブック(啓林館) LEAP Basic (数研出版)			
指導到達目標		<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の本文を利用して、「読む」「書く」「聞く」「話す(やりとり)」「話す(発表)」という5領域を育成し、英語を総合的に学ぶ。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。 ○中学校で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れる。 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Preparatory Lesson 1~4 Lesson 1 Enjoy Your Journey!	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○そのため、授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについても辞書で調べ次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 2 Curry Travels around the World Lesson 3 School Uniform R1 Encyclopedia Brown	
	第3回	Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima Lesson 5 Bailey the Facility Dog Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Dear World: Bana's War	
後 期	第4回	R2 Enjoy Food with Your Five Senses! Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere	
	第5回	Lesson 9 Space Elevator Lesson 10 Friendship over Time	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
外国語		論理・表現 I	論理・表現 I		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	習熟度別	
履修条件					
教材名・副教材名		FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店) FACTBOOK English Logic and Expression I Workbook』(桐原書店) LEAP Basic (数研出版)			
指導到達目標		<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の本文を利用して、「書く」「話す（やりとり）」「話す（発表）」という3領域を育成し、発信能力を培う。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。 ○中学校で学んだ学習事項を系統的に整理しながら、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるように配慮するものとする。 ○習熟度別授業では、基礎学力の定着を図るとともに高校の内容を深化させながら発展的発信力の養成も視野に入れる。 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各文法事項の用法を理解している。 各文法項目をタスクの中で適切に使う技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で論理的に詳しく話したり書いたりしている。	学習した表現を活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 自分の発話や書いたりしたものを振り返ろうとしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
育てたい生徒像(資質・能力)との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察 	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Unit 0 Get to know more about your classmates Part 1 Unit 1 Smart home, smart city Unit 2 History and future of our town TL1 The town you want to live in in the future Making a Speech	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらずペア(グループ)ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず表現できるように徹底的に復習する。
	第2回	Part 2 Unit 3 Preparing for a natural disaster Unit 4 Water supporting our lives TL2 Can you continue eco-friendly activities? Q & A after a Speech	
	第3回	Part 3 Unit 5 Save food you can still eat! Unit 6 How can we become more health-conscious? TL3 What can we do to reduce food waste? Making a Presentation	
後 期	第4回	Part 4 Unit 7 How many clothes do you buy? Unit 8 How do you decide which products to buy? TL4 Think before you buy!	
	第5回	Part 5 Unit 9 A variety of ways to improve your English Unit 10 How can we become foreigner-friendly? TL5 How can we make our community foreigner-friendly?	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指導と評価

教科名		科目名	講座名(校内名称)		単位数
家庭		家庭基礎	家庭基礎		2
履修学科		履修年次	期	履修形態	
普通科		1	通期	一斉	
履修条件					
教材名・副教材名		図説家庭基礎（実教出版） 生活学 Navi（実教出版）			
指導到達目標		家族や生活の営みを人の一生と関わりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。 生活課題を主体的に解決し、生活充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。			
講座内容		<ul style="list-style-type: none"> ○自分らしい生き方と家族 ○子どもとかかわる ○高齢者とかかわる ○食生活をつくる ○衣生活をつくる ○住生活をつくる ○経済的に自立する ○消費行動を考える ○生活設計 			
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構成し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて倫理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決しようとしている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
育てたい生徒像（資質・能力）との関連		幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法		定期考査 確認テスト 作品	定期考査 ワークシート 振り返り	ワークシート 振り返り 授業態度の観察	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科の学び方 ○ホームプロジェクト・学校家庭クラブ ○自分らしい生き方と家族 ○子どもとかかわる 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭基礎」を学ぶに当たって、学習方法・評価の方法を理解する ○ホームプロジェクトと家庭クラブ活動について、理解する ○ライフステージごとの発達課題やライフイベント、また青年期における各自立について理解し、自覚する ○さまざまな結婚、家族・家庭の意義や機能、現在の家族の抱える課題などを多角的に理解する ○妊娠の成立から誕生までを理解し、その重要性を認識する ○子どもの身体の成長について大まかな流れと特徴、またその成長のために必要な生活習慣や安全対策が重要であることを理解する
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者とかかわる ○食生活をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会の現状を理解するとともに、高齢者の心身の変化と個人差、生活について理解を深める ○高齢者の介護について、介護される高齢者も対等な関係にあることを認識する ○現代の食生活の傾向を理解し、健康的な食生活の必要性に気づく ○栄養とからだのつながり、栄養素と水のはたらきを理解する ○旬や品質表示などのポイントがわかり、食品を適切に選択することをできるようにする
後 期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○衣生活をつくる ○住生活をつくる ○経済的に自立する 	<ul style="list-style-type: none"> ○繊維・糸・布の種類、構造について理解する ○衣服を購入する際の表示の見方がわかる ○湿式洗濯・乾式洗濯の方法や界面活性剤の働きを理解し、適切な使用ができる ○住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解する ○平面図の読み取りができるようになる ○自然災害や人為的な災害と対策について理解する ○家計の構成や、収入と支出の特徴を理解する ○給与明細から、給与の使い方をシミュレーションする
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○消費行動を考える ○生活設計 	<ul style="list-style-type: none"> ○“契約”と消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ ○さまざまな問題商法や、被害にあった場合の解決方法について理解する ○さまざまな支払い方法のしくみや計画的にお金を使う大切さを理解する ○1年間の学習を通し、今後どういった人生を歩みたいか考える

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

指 導 と 評 価

教科名	科目名	講座名(校内名称)	単位数	
情報	情報 I	情報 I	2	
履修学科	履修年次	期	履修形態	
普通科	1	通期	一斉	
履修条件				
教材名・副教材名	高校情報 I Python (実教出版)			
指導到達目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>			
講座内容	第 1 章 情報社会 第 4 章 ネットワーク	第 2 章 情報デザイン 第 5 章 問題解決	第 3 章 デジタル 第 6 章 プログラミング	
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けている。情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしている。問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとしたり、情報セキュリティを確保しようとしていたりして、情報社会に主体的に参画しようとしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	幅広い教養 高度な技術	情報を分析し表現する力 論理的・多面的に思考する力 受容する力・対話する力	協働する力 やり抜く力	
評価方法	○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業の活動 ○提出物	○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業の活動 ○提出物	○実習 ○授業の活動 ○提出物	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	第1章 情報社会	<ul style="list-style-type: none"> ○情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ○情報技術が人や社会に果たす役割と影響や情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。
		第2章 情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付ける。
後 期	第3回	第3章 デジタル	<ul style="list-style-type: none"> ○情報のデジタル化に関して、必要となる知識や仕組みを科学的に理解する。 ○コンピュータの特性を踏まえて活用するために、コンピュータの能力を適切に判断する力、精度とデータ容量のトレードオフの関係などを踏まえ、コンピュータを適切に活用する力を養う。
	第4回	第4章 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ○情報通信ネットワークや情報システムにより、提供されるサービスを活用する活動を通して、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解する。 ○データを蓄積・管理・提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付ける。
		第5章 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の発見・解決に活用するために、必要なデータの収集について、選択・判断する力、それに応じて適切なデータの整理や変換の方法を判断する力、分析の目的に応じた方法を選択・処理する力、その結果について多面的な可視化を行うことにより、データに含まれる傾向を見いだす力を養う。
		第6章 プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータの仕組みや特徴を理解し、目的に応じたアルゴリズムを考え、モデル化やシミュレーションを適切な方法で表現し、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考え、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。